

2011年5月16日

一般社団法人日本技術者教育認定機構

2010年度認定審査サマリーレポート

JABEE の認定・審査は、16 技術分野の分野別審査委員会と、正会員 76 専門学協会の協力を得て実施されています。審査チームによるプログラムの審査結果は、分野別審査委員会での調整後、認定・審査調整委員会において全体の審議、調整を行い「最終審査報告書」としてまとめられます。この最終審査報告書に基づき、認定会議において各プログラムの認定可否と認定期間を決定します。

2010 年度学士課程プログラムの審査の結果、新規に 11 教育機関の 11 プログラムが認定されました。2001 年度に認定を開始してからの新規認定プログラムの累計は、165 教育機関で 435 プログラムになりました。この内 83 校（52%）の教育機関では複数プログラムが認定されています。また、認定プログラムからの修了生の累計は約 14.5 万人に達しています。認定プログラム数の内訳は、国公立大学 54%、私立大学 29%、高専（専攻科）17%、大学校 1 校となっています。認定プログラム数の多い分野は、機械（16%）、土木（15%）、工学〔融合複合、新領域〕（12%）、化学（11%）、電気・電子・情報通信（12%）、情報（9%）、建築（7%）、農業工学（4%）、農学一般（3%）、材料（3%）、地球・資源（3%）などとなっています。

審査の種別では、認定の有効期間を継続するための認定継続審査が約 83%を占めています。2008 年度に認定有効期間を 5 年間（2 年後に中間審査）から 6 年間（3 年後に中間審査）に延長した影響で、今年度は中間審査が非常に少なくなりました。

2010 年度の審査は、約 300 名の審査員によって行われました。また、約 170 名の審査員候補者が、オブザーバーとして審査に参加しました。審査員・オブザーバーのうち産業界の経験者は約 160 名でした。的確な審査を実施するため、2010 年度審査員に対して事前研修会を 2 度開催し、約 230 名が参加しました。また、審査チームを派遣する各学協会の主催により、審査員候補者の導入研修会（「審査講習会」）が 6 回開催され、その内 3 回は審査を予定しているプログラムに対する講習と併せて開催されました。

2010 年度は、改定された新基準の適用初年度となりました。2010 年度と 2011 年度は旧基準による審査も選択できる経過措置期間ですが、2010 年度はほぼ半分のプログラムが新基準を選択しました。

新基準で新たに対応を求めた項目についての、経過措置期間における取扱いを「2010 年度の認定基準改定に伴う経過措置について」およびその補足説明等で事前に説明したほか、今回の基準改定は主に学習・教育の量（基準 2）に関して授業時間に即する実質化で

あったため、自己点検および審査において新基準の選択による特段の混乱や問題はありませんでした。

中間審査を新基準で受審する場合、前回審査で指定された審査項目の一部は新基準の項目に読み替える必要がありますが、その点でも特に問題は見られませんでした。

2011年度は2010年度と同様の経過措置期間となりますが、2012年度は旧基準を撤廃するとともに、2012年度改定基準の適用を開始します。2012年度の改定では、基準の大項目が、「学習・教育到達目標の設定と公開」（基準1）、「教育手段」（基準2）、「学習・教育到達目標の達成」（基準3）、「教育改善」（基準4）の4項目となります。これにより、従来から強調してきたアウトカムズ重視の姿勢がより明確になるとともに、PDCAと基準項目の対応が明確になります。

ただし、2015年度までの4年間は2010年度改定基準による審査を選択できる経過措置期間とします。

中間審査について2009年度から、適正な点検によりプログラムの継続的改善を促す目的で中間審査の審査項目の点検結果に「欠陥（D）」を含む場合のみ不認定とし、「弱点（W）」があっても次回認定継続審査まで認定を有効とすることにしましたが、2010年度は中間審査の件数が少ないにも拘らず「弱点（W）」の多いプログラムが複数ありました。これらのプログラムには一層の改善を進めるよう注意を喚起しましたが、中間審査で改善が十分進んでいないと評価されたプログラムについては次回の継続審査を待たずに改善の確認を行う仕組みの導入を検討することにしました。

審査結果の審議・調整において、2010年度も学習・教育目標（基準1）の具体性、およびそれらを達成するための教育手段と評価方法の適切さ（基準3）、そして学習・教育目標達成度の評価の妥当性（基準5）が、PDCAサイクルの中で強く関連することを重視しました。その結果、点検結果（A、C、W）の見直しを行ったプログラムが複数ありました。この関連性の重視は、教育の質保証のための審査の基本的観点ですが、上記の2012年度の基準改定はそれをさらに明確にするものです。

技術者教育の重要事項である「エンジニアリング・デザイン教育」について、全般的には教育機関の理解と意識の進展が認められましたが、具体的取組みについては、一層の工夫と改善の余地があると判断されます。2011年度は、引き続きエンジニアリング・デザイン教育の充実に向けて、踏み込んだ審査を行う方針です。

JABEEは、アウトカムズ評価とPDCAによる継続的改善を基本とする認定・審査を通じて技術者教育の質保証に努めていますが、認定基準における重要な視点として、国際的に通用する技術者教育があります。そのために、JABEEは国際的な技術者教育の実態や動向を把握して基準の改定や審査に反映するよう努めていますが、プログラムによっては国際的な視点が不明瞭なものも散見されます。特に、国際的に通用する技術者として達成すべき能力の設定水準は十分検討する必要がありますし、教育方法やアウトカムズ評価方法についても国際的に比較することが望まれます。

同様に、審査についても国際的視野で水準を高めてゆく必要があります。従来から審査の質の向上のために、審査員候補者の拡充と、審査員の研修のレベルアップをはかってきましたが、これらについてさらなる努力を続けるのに加えて、2011年度にはワシントン協定の継続加盟審査が予定されていますので、国際的な技術者教育の視点を踏まえて審査を充実させる方針です。

2009年度から高等専門学校プログラムを対象に始めた1名の審査長が1プログラムを審査する同日審査方式については、審査長の負荷が大きく、また教育機関とのコミュニケーションも不足するとの問題提起がありました。また、以前から一大学で複数プログラムの受審がある場合は審査日を同一日として、実地審査時に審査チーム間での調整を行うことで点検結果の適正化を図ってきましたが、2010年度は一部の教育機関に認定・審査調整委員が同行し、その実態を把握すると共に必要な範囲で審査についての助言を行いました。これについては審査団と教育機関の双方から良い評価が得られましたので、2011年度の審査ではさらに派遣対象を広げる予定です。

なお、同一校の複数プログラムの審査年度は必ずしも同じではないことが、同日審査の実施に対する制約となっている場合があるほか、教育機関から受審年度の自由度を高めてほしいとの要望があることから、2010年度より教育機関が希望すれば審査年度を前倒しすることを可能にしました。2010年度は3プログラムに1年間前倒しの審査を実施しました。

また、新規審査で認定有効期間の開始年度を審査年度の前年度とすることを希望したプログラムのうち、前年度修了生に対するアウトカムズの完全な同等性が確認され2009年度を認定有効期間の開始年度としたプログラムが4件ありました。

JABEE 認定審査が教育改善に活用される一方、プログラムと審査側の双方に審査疲れとも言える現象の顕在化も見られるようになってきました。JABEE の審査は、プログラムと審査側が対等の立場で協力して、国際的に通用する教育プログラム（学生の学習体験）と学位レベルを保証し、教育改善を進めることを目指していますが、基準との形式的な整合性や裏付け資料作成等の面が過度に強調され、本来の目的に必ずしも合致しない努力を続けるプログラムも見受けられます。このような弊害が生じないように、また本来の目的を達成するため、一層の努力を致します。

注：「プログラム」とは、学科、コース、専修等のカリキュラムだけではなく、プログラムの修了資格の評価・判定を含めた入学から卒業までのすべての教育プロセスと教育環境を含むものであり、学科、専攻やコースなどの総称です。

拡大を続ける認定プログラム数と修了生数

— 認定開始から2010年度までの累計数 —

学士課程プログラム

